

〔研究ノート〕

ポイントアプリを用いた講義出席時の不正防止 システムの検討

清 水 正 博

- 1 はじめに
- 2 具体的な方策
- 3 あくまで副次的効果
- 4 おわりに

1 はじめに

高等教育無償化との関連で、大学における学生の出席管理が厳格化されている。本学においては学生が所持する学生証のICカードを出欠管理の端末にかざすことによって、出欠を把握している。

しかしながら、この方式には、講義各回の出欠の把握にあたって、受講学生が他の受講学生から学生証ICカードを預かり、出欠管理の端末にかざし、他の受講学生が出席しているように装う不正が行われる可能性が考えられる。

そこで、筆者は後述のポイントアプリを受講学生の所持するスマートフォンにダウンロードさせ、各回の講義において、アプリ上のバーコードをポイント管理用のipadのカメラ画面にかざす方式をとることにより、前述のような不正出席を防止できるのではないかと考えた。



(図1) ポイントアプリシステムにスマートフォンの画面をかざす学生

2 具体的な方策

本システムの特徴として、ポイントを手入するためには、スマートフォンの画面上に表示されるバーコードを教卓上のipadにかざす必要があることにある。この状態のスマートフォンは、所持者がバーコードを表示させる以外にLINEのメッセージを見る、メッセージを送受信するなど他の操作をすることが可能であるため、通常他人に預けることを避ける傾向にあり、この傾向、心理を利用して出欠の不正を防止できるのではないかと考えている。

3 あくまで副次的効果

現在、ポイントアプリシステムは、筆者の担当する中央学院大学法学部における会社法、有価証券法、企業取引法、企業法概論の講義において導入している。受講学生のポイントアプリに対する反応は好意的で、積極的に集める傾向が見受けられる。

各回の講義につき100ポイントが入手できる仕組みになっており、ポイ

ントを貯めることにより、最終評価等で得点の上乗せ等が可能であることをアナウンスしたうえでやっている。

また、本ポイントアプリの使用は、前払式支払手段や出資法との関連、地域通貨等、広く金融法に関する興味関心を学生に持たせるために導入したのがきっかけであったが、講義出席時の不正防止に役立つアイデアはあくまで副次的なものであった。しかしながら、受講学生の興味関心を維持しながら、文部科学省等で求められる以上に厳格な出席管理の可能性を見いだせるという点で、本取り組みは意義があると考ええる。

4 おわりに

2019年度に入り、兵庫医科大学において講義出席時の不正防止のため、顔認証で行っていることが報道され、話題となっている。確かに厳格な出席管理という側面からは、望ましい方策であるといえる。しかしながら、顔写真データの整理やプライバシーの問題、そして出席管理をされているという意図が直接的に受講学生に見えてしまう点で若干の問題点があるように感じる。

本取り組みのように、出席の不正防止の意図も含めながら、あくまで間接的、副次的な効果として不正防止を図れるといったレベルの方が好ましいのではないかと考える。

今後の運用などを通じて、問題点などを検討していきたいと考える。